

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
青森	青森市立浦町小学校	主体的に学び合い、考えを広げ深める子の育成 ～算数科・チャレンジグローバル科の授業研究を通して～	<p>1. ICTを活用した算数科の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> 見通しをもつ場面では、ジャムボードで作成した位取り表の活用、既習の掲示物から選択するなど視覚で捉えやすいように工夫され、どの子にとっても分かりやすいものとなった。また、児童の探求心を向上させることもできた。 ICTを日常的に使ってきたことで、教師、児童のスキルが向上し、学習的に適切に操作、活用することができるようになっていく。 <p>2. チャレンジグローバル科の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当インタビューは、児童の意欲を高めたり、結果を活動に反映させたりできるなど大変効果的な活動となった。 調査結果から分かった成果と課題がシートにまとめられていたり、よりよいプレゼンの観点が細かく示されたりすることで、児童の話し合い、児童間の評価、助言などがスムーズに行われた。 様々な思考ツールを適切に活用することで、情報を短時間で集めたり、考えを全体で共有したりすることができた。
山形	新庄市立日新中学校	学びを生かし、考えを創出する生徒の育成 ～指導と評価の一体化を目指して～	<ul style="list-style-type: none"> 全教科共通の取り組みから「覚える」から「覚えたものを使う」というように、生徒の意識に変化が感じられた。中には、考えてやってみる⇒周囲の人と比較する⇒より良い回答に改変する、というサイクルを構築できている生徒もみられるようになった。ただ、個々で考えるための基礎学力や表現力が十分でないために、生徒一人では十分にできないことも多いので、今後も必要な支援について考えていきたい。 個人テーマに沿った日常的な取り組み 課題設定や探究活動、根拠の示し方、ICTをはじめとする様々な教材の活用の仕方などの実践が見られた。生徒の姿から見られる成果として、討論会では根拠を吟味し、自信を持って意見を述べる姿や参考資料を活用したり、より多くの情報を集めたりする様子などがあげられる。また、授業者の意識として、授業改善に向けて課題が明確になり、今後研究していきたいテーマを具体的にすることができた。
山形	酒田市立十坂小学校	地域の教育資源を活用し、自ら学び視野を広げる子どもの育成に向けた実践 ～カリキュラムマネジメントの取り組みを通して～	<p>研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源の活用とカリキュラムマネジメントの取り組みにより、児童は様々な活動に意欲的に取り組み、物の見方や考え方をさらに広げることができた。 カリキュラムマネジメントの取り組みにより、児童につけたい力を明確にし、他教科との関連を横断的な視点でとらえ指導したことで、教師の授業改善につながった。 地域の豊かな教育資源を改めて見直し活動のねらいや内容を再構築することで、より深まりのある、また価値ある教育活動が展開された。 <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源を、教師側からの視点でなく、子どもの学びの視点での関りをもっと大切にしていける必要がある。それが、子どものより主体的な学びにつながると考える。
福島	会津若松市立神指小学校	身につける力を意識し、自分の考えを明確にし対話的に活動することで、思考力・判断力・表現力を高める授業のあり方 ～「読む」領域を中心とした言語活動の充実を通して～	<p>【成果と課題】(300字程度)</p> <p>研究の課題を受け、国語は学校教育のあらゆる教科の基盤であり、豊かな人間関係の構築のため大変重要であることを鑑み、文化性が高い地域性を生かし『茶道体験』を実施し、地域理解や郷土に対する誇りを醸成することを通して、更なる国語力の向上を目指して全校体制で取り組んだ。</p> <p>1 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間で茶道体験を実施し、国語及び社会、道徳、学活等と教科横断的な関連を図ったことで、地域の文化や歴史への興味が増し、国語への愛情と日本文化への理解が深まったことで、国語の運用力が高まった。 茶道体験を通して興味関心の幅が広がり、礼節、信義、郷土愛などが培われ、互いの良さを認め合いながら、自分で考え、判断し表現しようとする態度が向上し、よりよい人間関係づくりに大いに役立った。 <p>2 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語力の向上は、あらゆる機会にあらゆる場での日常の積み重ねがとても大切であるので、地域性を生かしながら、学校教育活動全体を通して、日々継続した取り組みをしていきたい。
福島	喜多方市立第一小学校	「光るまなざし 支え合う子」をめざして ～どの子も主体的に学び合える授業～	<ul style="list-style-type: none"> 研究の成果 ①考えを表出する 考えの根拠となるものや、考えを表す方法を子どもに示すことで、根拠を明らかにした考えをもち、かき表すことができるようになった。 ※有効性が見られた手立て ・思考表現ツールの提示・活用 ・ICT機器の活用 ・系統学習を把握したスパイラル的学習 ②学び合いの価値～考えを生み出す学び合い 必要感、明確な視点、実態に応じた的確な教師の働きかけがある子どもどうしの学び合いを取り入れることで、思いや考えを共有しながら学ぶ楽しさや価値を実感しながら主体的に学ぶ姿を実現できた。また、振り返ることで、自他の変容や学びを自覚する姿が実現できた。

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
福島	いわき市立平第五小学校	豊かな造形活動を通して生活や社会の中の形や色などに自ら関わり続ける児童の育成 ～児童一人一人の夢が花咲く授業づくりを目指して～	今年度、全校で取り組んだ図画工作科研究において、得られた成果として、特に次の2点をあげることができます。 ① 教科の目標や内容への理解を深めていく中で、子どもたちが、「図工大好き」という理由には、造形活動が本来もつ楽しさだけではなく、主体性や自由性、多様性、発展性などの要素が存分に含まれていることに気づき、教師自身の授業改善に結び付いたこと。 ② 図画工作の授業が充実し、横断的な学びを通し、他の教科も生かされていくことで、自尊感情や自己肯定感など、今の子どもたちに指摘される様々な課題が克服され、認知と情意のバランスがとれた健やかな育ちにつながっている様子が見られていること。
群馬	前橋市立鎌倉中学校	郷土を愛する心を育む、中学2年生の遠足の新提案 ～「挑戦！『上毛かるた』めぐり」の実施と検証～	・学校出発から帰校まで、生徒が自分たちで決めた場所へ自分たちの力だけで行って来るという設定は、冒険心を掻き立て、主体的に挑戦しようとする意欲につながった。 ・貴重な体験ができて達成感を味わうことができたり、郷土群馬の魅力を再発見することができたりして、教育効果が大きい遠足行事とすることができた。 ・県内での活動は、感染症が広がった場合の行動制限による中止のリスクが低いうえに費用も抑えられ、持続可能な遠足行事という点で理に合っていた。 ・活動のねらいを明確にするために、総合的な学習の時間の全体計画と年間指導計画を見直して、遠足実施に向けた事前学習をより充実させる必要がある。
群馬	前橋市立前橋高等学校	探求学習における地域機関との連携について ～「芽」を見つけ、育み、膨らませる～	生徒の直接的な変容として、将来的に地域に関わる仕事に就きたいと思う者が増えている。また、本校における探求学習での学びを基に、自ら進んで活動のフィールドを他地域に広げ、活性化のための「課題を見つけ、解決手段を提案し、実行する」という、発展的変容が見られる生徒も育っている。 教員側の変容としては、探求学習の取組を生かした受検が可能な推薦入試を積極的に調べ、生徒に情報提供する姿勢が見られるようになった。また、探求学習では、生徒にさまざまなアイデアを出すように促し、出されたアイデアを丁寧に拾い上げる取組が求められるため、教科指導においてもその姿勢が活かされるようになり、双方向授業の充実につながっている。
埼玉	さいたま市立仲本小学校	主体的に考え豊かに伝え合うことで、考えを広げ深める児童の育成 ～学ぶ楽しさを味わい、生き生きと学び続けるために～	1 研究の内容 ・「学びに向かう力、人間性等」に着目した資質・能力を育成するため。算数、体育を中心に児童一人ひとりの学習進度や習得状況に応じた指導方法の工夫についての研究を行った。 2 成果(○)と課題(●) ○考える時間や伝え合う時間を効果的に取り入れることで、自分の考えに自信をもって表現できる児童が増えてきた。 ○ICTを効果的に活用することで、分かりやすく伝え合うことができるようになった。 ○授業研究会においては、2つの仮説に対する手立てについて検証することができた。 ○模擬授業によるICTの活用研修をしたことで、教員のICTスキルを高め、教科指導等に生かすことができた。 ●児童の学習状況は、まだまだ違いが大きくみられる。個に応じた学習を工夫し、1人ひとりの児童が確実に力を付けられるようにする。 ●学んだことを新しい学びにどう生かしていくのか、児童が自ら学びを調整していけるよう研究を深めていく。
埼玉	所沢市立三ヶ島小学校	未来に向かって主体的に歩む児童の育成 ～「ふるさと三ヶ島を愛する心の育成」と「三ヶ島学力向上プロジェクト」を通して～	1 主要な成果 ○教職員の意識変化 ・学力向上に向けての取組姿勢(教材研究、授業実践、校内研修の充実) ・教育課程編成への取組(学力向上に向けた取組の位置づけ) ○学力学習状況調査の結果 ・令和4年度の全国・県学力学習状況調査の中では、一部の学年の学力で前年度より大きな伸びが見られ、全国・県平均に近づく結果が得られた。また、学校全体の平均も少しずつ伸びが見られる結果となった。 ・自己肯定感についても、一部学年で大幅な上昇が見られた。 2 課題 ・人事異動により新しく着任した教職員へ「ふるさと三ヶ島」を伝える研修時間の確保を行うこと ・所沢市では令和7年度より全小中学校でコミュニティスクールが始まるため、地域への周知と準備が必要である。特に管理職の異動にともなう情報共有と校内の資料を整える必要がある。

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
埼玉	川越市立南古谷小学校	自他を尊重し合い、よりよい生活づくりに主体的に参画する児童の育成 ～合意形成のよさを実感することのできる学級活動の充実～	<p>研究の成果(○)と課題(●)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師主導ではなく、児童が中心となって話し合う力が身に付いてきた。 ○合意形成の際、それぞれの意見を合わせて、よりよい意見を形成させていくことの良さを経験させることができた。 ○学級会で決まったことを実践する中で、主体的に取り組む姿が見られるようになった。 ○自分の意見を伝える力が付き、異なる意見や少数意見を認める態度が育ってきた。 ●議題を自分事として捉え、同じ土俵で話し合えるように共通理解をしっかりと図っていくことが必要である。 ●提案理由に沿って話し合う力を高めていくことが課題である。 ●心配意見や反対意見をどのように扱い、折り合いを付けさせていくのか、学級会の実践を積み重ねながら研究をしていく必要がある。 ●計画委員との打ち合わせや学級会準備をする時間の確保等、より効率的・効果的に事前の準備をしていくかが課題である。
埼玉	滑川町立福田小学校	ICTを活用した学力向上 ～授業改善を中心に～	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①児童も教師もタブレットパソコンを活用する機会が増え、操作にも慣れてきて、準備や片付け、取り扱いにかかる時間が短縮され、活動時間枠が増えた。 ②本校のデジタル環境で、実際に活用を試みる中でノウハウが蓄積され、あえてタブレットを使用しないことも含め、より有効な活用法についての方向性が見えてきた。 ③読解力向上のためのタブレットパソコンの活用方法を模索したことは、経験の蓄積となり、特に児童用および教師用「デジタル教科書体験版」を活用した研究授業では、デジタル教科書の特長を知ることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを文房具として使うこと(児童も教師も)。ICTの使用場面の精選。 ・「協働的な学び」と「メタ認知」について教師がより研修し、児童に適切に指導することで読解力を向上させたい。 ・学力が二極化の傾向にあり、授業をやっていて難しいと感じた。
埼玉	上尾市立鴨川小学校	新しい社会を生き抜く児童の育成 ～プログラミング的思考を軸とした情報活用の育成～	<p>研究の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内授業研究会を年2回行い、3～6年の全ての学年で実践を見合うことができた。 ○情報活用能力の中でも「まとめる・表現する」の段階における力を伸ばすために、発表する力の系統表、指導カリキュラム、発表話型の作成をすることができた。 ○ICT端末を活用したふりかえり活動を行うことで、単元を通した活動の蓄積をすることができた。 ○Chromecastを活用することで、モニタを示しながら発表する経験を増やすことができた。 ○コンピュータを活用する技能に対する児童の自己評価が高まった。 ○協働して学習を進めることや、目的に向かって粘り強く取り組むことについて前向きな気持ちをもつ児童が増えた。 △児童は、発表活動に対して苦手意識があり、発表の工夫や表現する力についてはさらけ伸ばしていく必要がある。 △発表する力を高めるためには、聞き手の質問内容や感想内容を深める指導が必要である。 △ふりかえりの内容について指導を重ね、ふりかえったことが次の活動に生きていくような授業展開の工夫をしたい。
埼玉	川口市立元郷南小学校	主体的に自信をもって活動する児童の育成 ～思いをもって、挑戦する楽しさを味わえる図画工作科の実践を通して～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習意欲を高め、主体的な活動・知識の習得につなげることができた。 ・発問の精選、関わりが生まれやすい場の設定、試行錯誤する機会の保証は、思いを広げることに有効であった。 ・友達と自然と交流できる時間や場を設けることが、児童の表現力を高め、技能や鑑賞の能力の育成につながった。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何度も試行錯誤する時間を設けるために、児童がイメージをもてるようにしつつも、導入の時間を短くするようにする。 ・児童同士で見合う時に、形や色に注目することや、どこを工夫したかなどを見る視点をしぼれるようにする。 ・いつ、どのように交流や鑑賞を設定すると効果的なのかさらに研究を深める必要がある。

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
埼玉	三郷市立彦成小学校	気力あふれる児童の育成 ～成功体験を積み重ね、自己効力感を養う活動を通して～	<p>1 研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ざっくばらんな話し合い活動を通じた授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・「わからいことをわからないといえる学級」を基盤とした学級づくり ・話し合いを通して、技能や意欲の向上を図ると共に人間力の育成を目指した。 ・自分自身を見つめ、明日につながるメタ認知の育成。 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを活発化させる教材教具の開発・ICTの活用。 <ul style="list-style-type: none"> →児童同士の話し合い場面が増え、授業に活気が生まれてきた。進んでアドバイスをしたり、自身の考えや技能を客観的にとらえることができるようになり、学級全体で高めあえる雰囲気生まれた。 ○進んで体を動かす環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ボルダリングボードの設置…体幹を鍛える。最後までやり抜く心を育てる。 ・投力向上の工夫…全校体育(業間運動)での各学年の実態に応じた投力向上策の立案。 <ul style="list-style-type: none"> ボールの整備、的あての開発等。 ・地域指導者によるスポーツの指導「放課後彦成クラブ」…地域連携、専門家の指導 <ul style="list-style-type: none"> →現状の課題にあった環境整備を実施できた。児童が進んで体を動かす <p>2 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童同士の関わり合いの質の向上 ○体育的教育財産の継承と発展。 ○地域・家庭をまきこんださらなる体力向上の雰囲気の醸成
埼玉	三郷市立瑞木小学校	学びを深める児童の育成 ～互いに認め合い、主体的に学び続ける子の育成～	<p>【成果】</p> <p>全国学力・学習状況調査及び、埼玉県学力・学習状況調査ともに、目標の全学年111%超えを、全教科において達成することができた。また、児童の意識調査の結果では、自信を持って発表しようとする態度や、生活の中で算数の学習を生かしていこうとする態度が向上し、算数の学習課題に必要感を持って意欲的に取り組む児童が増えた。</p> <p>【課題】</p> <p>学力の二極化が見られる。一人一人を伸ばすために授業改善や、タブレット学習の更なる活用と効果的な指導法の研究をこれからも行っていく必要がある。考える楽しさが感じられる指導の充実に努めていく。</p>
埼玉	本庄市立共和小学校	児童の自然な思考の流れをいかすICTを活用した授業改善 ～算数科における学習指導の充実と教職員の指導力向上～	<p>「主な研究成果」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを効果的に活用する実践研究(児童ごとの理解度に合わせて練習問題、授業における児童の思考の見える化や共有化等)を進めたことにより、ICTを活用した授業が日常的に全学年で行える状況になった。 ・ICT教材を共有ドライブで学年ごとにまとめ、蓄積することでいつでも活用できるようになった。教育財産を共有することができたことによって、働き方改革もあわせて進めることができた。 ・OJL(On-the-Job-Learning)の視点を取り入れた「一人一研究」の取組、授業の相互参観、関係機関からの支援による専門性を高める取組により、キャリア段階に応じたそれぞれの教職員の力量を高めることができた。学校評価においても、ICTを効果的に活用した授業については98%、研究課題への積極的な取り組みについては92%、外部指導者を招聘した一人一研究授業については95%を達成した。
千葉	匝瑳市立須賀小学校	自己の生き方について考えを深め合う道徳教育 ～自己を見つめ、主体的に考え、議論する道徳化の授業を通して～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きき合い活動」の充実に取り組み、低学年では、友達の考えと自分の考えを比較しながらきくことへの意識を高めることができた。また、高学年では、多様な感じ方や考え方にふれ、自分とは違った感じ方や考え方があることを実感し、それを大切にしようとする意欲を高めることができた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学年では、自分とは違った感じ方や考え方にふれることよきを実感することはできたが、その違いを大切にしようというところまでは至らなかった。どの学習においても「きき合い活動」を充実させることで、自分の考えを素直に表現し、それぞれの考えを大切にすることを養うことができるようになるのではないかと考える。

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
千葉	南房総市立三芳小学校	幼児期の教育と小学校教育をつなぐスタートカリキュラムと生活科 ～南房総市と連携した架け橋プロジェクトの実践から～	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園と合同の会議を年間計画に位置付け意図的に設定してきたことで、幼稚園の経験を生かした活動ができ、生活科を中心として合科的に取り組む単元構成が、自然な流れで組み立てられた。また、幼稚園でも小学校の教科学習を意識した活動に取り組めるようになった。 ・幼児の生活全体の質を考慮する幼児教育と、各教科における授業や単元を中心に学びの質を考える小学校では違いがある。だからこそ子供たちの実態から、学ばせたいねらいへ活動へつなげていくことが大切である。そのためにも子供自身が考えて学べる環境作りやストーリー性を持たせる流れの工夫は有効だった。 ・スタートカリキュラムは、子供の実態やねらいに沿った子供の姿が表れているかどうかを見通し進めていく必要がある。また、児童の持つ力を引き出す指導者の姿勢も大切である。そのためにも、その都度子供の実態に合わせ、内容を改善しながら柔軟な計画を心がけ、進めていきたい。
千葉	鎌ヶ谷市立南部小学校	GIGAスクール時代到来、学校図書館の挑戦	<p>①国語科と学校図書館が連携した児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科の研究主題【自分の思いや考えを表現する児童の育成～学校図書館の活用を通して～】を昨年度から引き続き研究。令和4年度の実践は以下の通り。 《2年生》単元名「本でしらべて『生きものクイズ』をつくろう」 《6年生》単元名「本で紹介して人の悩みを解決しよう」 《4年生》単元名「きつね対決！きみはどっちのタイプ？」 <p>②家庭での不読率低下への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での読書体験を保護者と共有する「うちどくカード」を継続。 <p>③ICTを活用した他校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校：国語の学習成果物を通して交流 ・中学校：ビブリオバトルやPOPの交流 <p>学校図書館の活動はデータで検証することが難しいが、継続することで児童が本の紹介をすることが日常になり、高学年では発信の取り組みについて自発的に考える姿が見られるようになった。今後も学校図書館では児童の活動を支援していきたい。</p>
千葉	松戸市立金ヶ作小学校	「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた授業改善 ～主体的に学ぶ姿を導き出すための土台づくりを通して～	<p>1 研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言語活用科日本語分野の様々な「型」を知り、活用することにより、明確な話し方及び思考したことを端的にまとめ、自分の考えとして伝えることができる。 ○ 全教科・領域での活用場面を設定し、児童が「型」を選択し、思考力や表現力を各教科や日常生活で活用することができる。 <p>2 成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・児童及び教師側も話型を意識して話すようになった。 ・結論先行型及びナンバリングを活用したことにより、相手への意識を持ち、わかりやすく話そうとする態度が身についてきている。 ・自分と相手の考えを比較しながら自分の考えを広げることができた。 ○ 今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・個人差が大きいため、練習する機会を設けること。 ・言語活用力を育てるために、継続的な指導及び言語活用科で学習した内容を他教科及び日常生活の場面の設定が必要であること。
千葉	千葉県立大多喜高等学校	持続可能な地域づくりに貢献できる地域創生リーダーの育成 ～大高から発信 課題を見つけて、ともに考え、大多喜を創出～	<ul style="list-style-type: none"> ○ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動におけるICT活用が促進され、大高探求Ⅰ・Ⅱの学習におけるプレゼンテーションの質的向上が進んだ。また、教員のICT活用における指導力も向上しつつある。 ・生徒自身が「課題発見能力」「課題解決能力」「自己表現能力」が身に付いてきていることを実感している。 ・行政・企業・教育機関等のコンソーシアムとの連携をさらに深めることで、学校教育活動への支援体制が整備されつつある。 ○ 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・小、中、高のつながりを意識した系統的な探求学習の指導の在り方を構築することが求められている。 ・課題解決に対する現実的な提案や提言につなげられるような指導が必要である。 ・探求活動のみならず、さらに各教科・科目との関連を重視した横断的学習の在り方を模索しなければならない。 ・次年度も引き続き、これらの取り組みを実践して成果を出していくことが重要だと考えている。

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
千葉	千葉市立幕張西小学校	自分を認める心、他者をありのままに受け入れる心の育成 ～道徳科を中心とした指導構想の充実～	<p>○学校の教育課程を俯瞰し、年間計画をカリキュラム・マネジメントの着眼点で見直し、事前、本時、事後の学びをつなげる指導構想をもとに展開したことにより、道徳的価値についての理解を深め、子供たちの実生活に生きて働く学びにつながった。</p> <p>○外国人差別やLGBTQ差別、障害者差別等に関する今日的課題のほか、広く一般的なメディアに取材し、ねらいと実態に合わせて教材開発したことにより、子供たちは活発に意見を伝え合い、生き方について考えを深めていた。</p> <p>○聴き合い活動の定着により、友達の考えを進んで聴き、道徳的価値についての理解を深めるとともに、友達と肯定的に聴き合うことにより、自己肯定感を高め、相手の思いを受け入れようとする心を育むことができ、他教科等にも生かす姿が見られた。</p>
千葉	印西市立西の原中学校	表現豊かに書く活動を通して、互いに認め合うことのできる生徒の育成	<p>○相互に読み合い助言を行う活動を繰り返すことで、仲間に評価されることを意識するようになった。</p> <p>○仲間の表現からの学びが多くあり、意欲的に協働の活動に参加するようになった。</p> <p>○目的や手順を明確にすることで、生徒が何度も推敲して文章をよくしようとする姿勢が見られた。</p> <p>○常に読み手がいるという意識が、多様な語彙の使用を促している。</p> <p>○書いてみたいと思う文章が多様化し、文章を自分の思いを伝える手段として前向きに捉えるようになった。</p> <p>○題材や授業の工夫が、生徒の変容に顕著に関係してくることに手応えを感じた。</p> <p>●文章の見本やテンプレート、評価規準を生徒の達成度に合わせて複数提示することで、自分の力に応じて積極的に取り組み、表現力を高める手段となる。</p> <p>●使ってみよう表現を生徒がそれぞれリストアップする習慣をつけていくと、意欲喚起と表現の豊かさの向上が望める。</p> <p>●生徒が自己変容を自覚できるような振り返りの方法について、研究を重ねていく必要がある。</p>
千葉	木更津市立畑沢中学校	カリキュラムマネジメントの充実を目指した実践的研究 ～「総合的な学習の時間」におけるSDGs教育を柱として～	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の共通理解や共通認識のもと、人と人が対話をする機会や体験学習の機会を設定・実践してきたことで、一体感のある組織的な教育活動が行えた。 ・今回の実践を通して、生徒の主体性が高まったことで、探求心や発信できる表現力などの向上が個々に評価することができた。 ・制服変更は学校の歴史的な機会となるが、SDGsや人権と関連させながら全校生徒で取り組めたことは大きな功績となった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルをさらに機能させた、質の高い実践にしていくための「評価・分析・改善」の方法。 ・自治体や企業が取り組むSDGsに関する内容や各教科との関連をさらに持たせた、系統性のある全体計画・年間計画の見直し・改善。 ・教職員の教育的リソースを積極的に探そうとする視点、また、それをどのように活用し、何を学ばせていくのかを系統的に構成していく力の向上。
東京	調布市立滝坂小学校	言葉と向き合い、共に読みを深める児童の育成 ～課題設定を工夫した文学的文章の授業づくり～	<p>○主要な研究成果 (学校全体)一時間の中で、第一課題、第二課題と二つの異なる課題を効果的に設定することによって、内容を深く読み取ることができるようになった。</p> <p>(低学年)学習で扱った語彙や季節を表す言葉を通年で教室掲示することにより、語彙や言葉の活用の習得に成果があった。</p> <p>(中学年)常に叙述に戻って読みを深めるように指導したことで、言葉の大切さに気付くことができた。</p> <p>(高学年)情景描写や文中で使われている色の意味など、表現の工夫から心情を読みとろうとする意識が高まった。また、登場人物の気持ちの変化に着目し、山場を考えながら文章を読み進める児童が増えた。</p>
東京	板橋区立高島第六小学校	人とつながる 未来とつながる 高六の子 ～SDGsを生かした教育の推進～	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が学校生活のあらゆる場面とSDGsとを関連付けることで、「できること」「続けられる」を意識して、よりよい学校生活を送るための参画意識が高揚している。 ・児童の学びでは、社会科の見方考え方としてSDGs的視点を持ち、主体的に社会の一員としての行動意欲を高めた。家庭科では、よりよい生活について、行動判断の根拠となった。 <p>総合的な学習の時間では、社会の実情を捉えながら、学びを深める機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が、児童に計画的にSDGsを意識させ、4つの段階がサイクルし、スパイラルに展開していくためのカリキュラムマネジメント意識を高めた。 ・教師が、SDGsを扱うために発達段階を再検討したり、各教科の目標を再認識したり、学習評価を見直したりすることになり、結果、教育活動全体の充実につながった。

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
東京	目黒区立下目黒小学校	自ら課題を設定し、主体的に探究する児童の育成 ～「めあてと見通し」「まとめとふりかえり」の実践の積み重ねを通して～	<p>①成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が、めあてと見通し、まとめとふりかえりを意識した生活科・総合的な学習の時間の単元構成を計画し、学習を進めることができた。 ・SDGs発表会の様子などから、調べたことをもとに、自分の考えをまとめ、発表する力が伸びた児童がいることがうかがえた。 ・思考ツールやワークシートを活用することで、視点が明確になり、児童の話合い活動を充実させることができた。 ・月1回の代表委員会を行い、児童同士の交流を推進するためのきょうだい学年遊びを企画するなど、特別活動の充実を図ることができた。 <p>②今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科・総合的な学習の時間で意識してきた「めあてと見通し、まとめとふりかえりを意識した単元構成」を、他教科にも応用・転移し、教育活動の充実を図ることが課題である。
東京	練馬区立向山小学校	自分の考えをもち、楽しんで表現しようとする子の育成 ～ICT機器の活用を通して～	<p>主要な成果と課題 (成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を使うことで自分の考えを表現する方法の一つとし、表現する機会を増やしたことで表現することへの自信が高まった。 ・児童の考えの可視化が容易になり、即時に共有することで多様な意見に触れることができ、一人一人の考えの生成、深化に寄与した。また、交流学习、協働学習の活性化につながった。 ・児童一人一人のタブレット端末操作のスキルが飛躍的に向上した。ローマ字入力も2年生の3学期から開始できることが確認できた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの情報の分類、整理、統合、編集等、情報活用能力の向上が必要である。 ・手書き文化のよさを生かし、タブレット端末との併用を模索する。
東京	江戸川区立北小岩小学校	対話的な学びの実践 ～指導と評価の一体化を目指す授業づくり～	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いろいろな考えがある中で、付箋を活用することで分類できた。グループの人数も ちょうどよかった。相手の考えを認める姿が多く見られ、教師の適切な 助言で安心感をもって学習が進められていた。 2. 生活科、理科、社会など、他教科で学習したことや総合的な学習の時間での既習事項を活用し、見通しをもちながら小松菜を育てる計画を立てることができた。 3. 前時に見取った児童の姿 から、本時のC児童に対する声かけを考え支援することができていた。また、観点別 評価のための児童の具体的な姿が明確 になっていた。 4. 遊び に 夢中 になっている 児童に教師が声を かけ続けたことで、児童の考えを引き出せていた。シールを貼ることで、友達に評価されたことが視覚的に分かりやすかった。うまく伝えられない児童にも効果的だった。 5. iPadを活用したことで、全員が資料を見ながら話し合えた。資料を精選したことで、グループでの話し合いも活発になり、本単元のキーワードを 各グループで考えられた。また、根拠をもって説明するためにも、資料が効果的だった。
神奈川	相模原市立双葉小学校	学校現場の働き方改革 ～幸せに生きる力と教材研究の時間の確保～	<p>○研究の成果</p> <p>日課表と週時数を変え、会議を月曜以外は行わない等の改革を進めたことにより、放課後の時間が増え、授業の準備や事後処理、学級の子どもについての相談にあてることができるようになった。また、その時間を活用してどの教員も子どもたちが興味関心を持って取り組める授業をより工夫するようになった。時間外勤務についても前年度と比較すると一人当たりで年間約70時間以上減らすことが出来た。我々職員だけでなく子どもたちも放課後の時間が増えたことで帰宅後に大勢の友だちと学校に遊びに来る姿が見られるようになった。今回の取組で職員も子どもも家庭も地域も笑顔が増えた気がする。</p>
神奈川	相模原市立緑台小学校	自己実現力を育成する教育課程 ～キャリア教育の取組～	<ul style="list-style-type: none"> ・意図的、計画的にキャリア教育を意味あるものとして浸透させ、定着していくことが重要であり、準備期間を経て、キャリア教育の意義について教職員の意識が向上し、キャリア教育の視点で教育活動を見直すことが進められている。 ・これまでの学校教育目標をもとにした教育活動を再度整理、理解し子どもたちが将来につながる力を身につけていることを具体的な姿やめあて、振り返り等を通して教職員と子どもで確認し合い、成長を分かち合うことが何より大切と考える。 ・キャリア・パスポートの取組を通して、子どもの自己肯定感や学ぶ意欲を高め、自信をもって未来を切り拓く力をつけていることを実感させたい。

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
神奈川県	横須賀市立公郷小学校	支援教育を基盤とした算数科の授業づくり ～子どもの学びが繋がる・広がる指導の工夫～	「成果としては、学習の必然性や単元のストーリー性を意識することで、「主体的な学びのある授業づくり」を目指すことができた。 ・子ども自身の問いから学習課題が生まれたり、考え方のズレから話し合いの必然性が生まれたりして、対話的な学びが展開された。 ・インクルーシブ教育を意識し、学習における親和性を引き出す学級環境の整備や支援を要する子を意識した学校体制が促進された。 ・一方で課題としては、顕著な学力差への対応が求められる。個別最適化の学びを目指した取り組みとして、クロームブックの活用も試みてきた。更なる授業の工夫改善の必要性が明らかになった。」
神奈川県	茅ヶ崎市立小出小学校	地域教材を生かした授業を通して子供たちの主体的な学びを目指す ～地域と共に育つ小出っ子を育むために～	主要な研究成果 ①今年度も、地域教材を生かしながら、子どもたちの主体的な学びができる授業づくりを行うことができた。特に、6年生が下寺尾官衙遺跡の授業の成果を地域主催の「遺跡文化祭」で発表したことは、6年生たちにとっても学校にとっても意義深いものであった。 ②子どもたちがより主体的な学びができるように各学年の地域教材を中心とした総合的な学習の再編成を図ることが長年の懸案となっていたが、それを教職員全員で本格的に始めることができた。 ③来年度の150周年記念事業の準備を行う中で、子どもたちが何を今後に残していくかという視点で事業に取り組んでいる。その中の一つとして、歌入りの校歌の音源を制作することにできた。
神奈川県	平塚市立大野小学校	共に学ぶ楽しさを味わう子をめざして ～言葉で思いを伝える国語科の学習活動～	本校は「共に学ぶ楽しさを味わう子」を目指して研究を進めた。研究の方針を「伝え合いを意識した授業実践」としたが、コロナ禍、発表や話し合い活動、グループワークを行うことは難しく、伝え合う場面を多くの学習活動で取り入れることができなかった。それでも、子どもたちのより有効な学びのため、様々な工夫をして研究を進めた。 学校研究を推進する中で特に感じたことが、「伝え合いたい」という子どもたちの強い思いである。話し合いやグループ活動が制限される中、それができる際は、生き生きと授業に取り組む姿が見られた。友達と関わり合いながら学習していく楽しさや大切さを、このような状況だからこそ再認識することができたのではないだろうか。さらに、他教科や学校生活の様々な場面で伝え合う活動を取り入れることで、主体的に学習に取り組む姿が多く見られたことは、研究の成果と捉えられる。
神奈川県	川崎市立住吉中学校	本校における今日的な生徒指導上の課題について ～かわさきGIGAスクール構想の推進に向けた取り組みについて～	『研究主題の主要な研究成果』 ・情報モラル教育を計画的に実施することで、生徒がSNS等を介したトラブルに巻き込まれたり、生徒間で同様の問題等が生じる件数が減少した。 ・GIGA端末等の使用方法について、多岐にわたる課題を踏まえ、効果的な利用に繋げることが出来ている。 ・教職員の情報モラルに関するスキルが向上し、生徒や保護者からの相談にチーム学校として応じられるケースが増加した。 ・関係機関や地域、PTAが情報モラル教育への関心や興味を深め、相互に協力し合うことで、生徒の置かれている状況等への理解について共有を図ることが出来た。 ・生徒やその家族、地域住民等が安心して安全な家庭・学校・地域生活を送ることへの一助となるよう、引き続き関係機関や地域と力を合わせ、情報モラル教育を多面的に展開していけるよう(例. ①生徒・保護者・地域住民・教職員を対象とした講演会やキャンペーン活動、②生徒・保護者・地域住民が相互に学び合う学習会、等)努めている。
神奈川県	藤沢市立第一中学校	課題を抱える生徒への支援の充実化を図るための取り組み ～不登校生徒への対応の在り方について～	【研究成果と課題】 ・課題を抱える生徒への支援の充実化を図るために、全職員が責任と熱意を持ち、家庭や地域と連携のもとに、生徒一人ひとりを理解し、自己肯定感を高める取り組みに努める。 ・「教室復帰へのステップとしての利用」が別室使用の目的であり、生徒が少しでも学校に足を運び、学級で生活できるようになるために別室を利用することを原則とし、一時的避難としての利用としては使用せず、教室へ入れないならばすぐに別室ではなく、別室利用までのアプローチがあつて、段階を踏んでから別室利用という流れにしていくことの重要性を確認できた。 ・一番の課題は別室運営に係る人員の確保があげられる。今後は、市から配当される介助員派遣時間数の増加と通年で別室運営に関わることができる人材の確保が急務であると考えている。

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
神奈川県	南足柄市立南足柄中学校	思考力、判断力、表現力等が高まる指導法の工夫 ～主体的・対話的で深い学びをめざして～	○研究の成果と課題 教室にいるすべての生徒にとって分かりやすい授業の構築等を全ての教員が意識して進めた。これにより「学習に対する意識調査」の結果から、生徒・教師ともに理解が進んだり成長を実感できたりしたといった結果を得ることができた。また、書くことによる表現力の向上に一定の充実感を持っている生徒が多い一方で、話すことによる表現力の向上にはまだ実感を持つことができていない生徒がいることが分かった。特に他者の意見を受け止めて新たな意見を考えたり、生徒がお互いに意見を交わしあうことで考えを深めたりしていくような力はさらに伸ばしていく必要がある。今後も、これまで本校の研究に携わってきた教師とともに授業をつくってきた生徒たちの「より豊かな学びを創造したい」という思いを大切にしていきたい。対話を通して、生徒と教師が共同しながら教室の中で新たな考えや意見を生み出す、その成果を現実の社会とつなげていく、そのようなダイナミズムのある授業を今後も目指していく。
新潟県	長岡市立表町小学校	「新しい生活様式」における持続・発展可能な児童会活動の試行 ～ハイブリッド型縦割り活動と情報共有を視座に～	・高学年が主催する児童会や縦割り班行事においてGoogle Formsで反応を拾ったり、町校班ボードに感想を書いてもらった記述からフィードバックを得たりできた。 ・Jamboardなど双方向にやり取りができるアプリを活動に入れることで評価が得られ、次の活動への改善と意欲につなげる姿が見られた。 ・Google描画キャンバスやキネマスターなどの画像・映像制作であり前に出ることが少なかった児童が全校に表現・発信して認められ、充実感や自信を得る姿が見られた。 ・タブレット端末を用する中で、児童同士で問題だと感じることについての問題点や気を付けることを話し合い、確認できた。
新潟県	新潟市立亀田東小学校	多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力を育む学校づくり ～認め合い、助け合う支持的風土あふれる教育課程～	研究の成果と今後の課題 取組後、新潟市教育委員会では毎年実施している「生活・学習意識調査」で、この実践に関連する項目について、前年度を上回る肯定的な回答を得た。 調査項目数値(肯定的評価) ・自分にはよいところがあります。□ R3 79.7%(R2 76.6) □R4 85.2% ・やっていることを先生や友達に認められて、うれしいと感じることがよくあります。 R3 85.0%(R2 80.5) R4 88.8% ・友達のよいところを見つけたり友達が落ちこんだりしている時、はげましたりしています。 R3 87.8%(R2 84.1) □R4 88.5% ・学校生活で、友達と力を合わせて学習したり活動したりしています。 R3 90.6%(R2 89.8) □R4 92.4% 今後も多様性を認め合い互いのよさを生かして協働し合う姿が表れるよう、教職員と子どもたちを巻き込んだ改善策を創造する。
新潟県	見附市立西中学校	意欲的に考え、積極的に発信する生徒の育成 ～全校体制で取り組むファシリテーションを活用した授業活動～	【主要な研究成果】 1 ファシリテーションへの意欲やスキルの向上 (1)教職員の意識・指導スキルの高まり ○教職員が一致団結して共通実践しようとする意識の高まり。 ○教職員の指導スキルが高まり、自主的にKPTやブレインマップ、インタビューワークなどを、学級活動等に取り入れることが増加 (2)生徒の意欲やスキルの高まり ○諸調査で他と意見を交流させることへの意欲の高まり。 ○内容を広げたり、深めたりするための質問やあいづちのスキルなど、その技能の高まり、話し合いの質的向上。 2 積極的に発信する生徒の育成 ○諸調査において、自分の意見を発信することに関する肯定的な評価の高まり。 ○地域連携・地域貢献活動における地域に向けて積極的に発信、アイデアの提供、地域貢献への意欲の高まり。
新潟県	新潟市立岩室中学校	今必要とされる資質・能力を育成する社会に開かれた教育課程の創意工夫 ～コミュニティ・スクールを活かした総合的な学習の時間の創造～	【学校研究】「主な研究成果」 地域を学びのフィールドとして、地域の魅力や価値を多面的に探究する中で、それらを生かしながら、住みたい・住んでみたい・かかわりたいと思う人が増えていく未来の地域の姿を地域の大人と一緒に考えていく地域創造型の総合的な学習のカリキュラムを実践するプロジェクトをコミュニティ・スクールの活動に位置付けて行なった。 活動を通して、かかわった人たちの思いや願いと直接ふれることを通して地域や社会とつながる実感が以前より高まっていると評価している。また、子どもの教育に地域ぐるみでかかわろうという機運の醸成につながった。

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
富山	高岡市立博労小学校	人間性豊かに、自らを高め、たくましく生きる子供の育成 ～ふるさと学習の推進～	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間等を中心に教科等横断的な学習過程を工夫してふるさと学習を推進することで、教員のカリキュラムマネジメント力が向上した。 地域の人(本校の卒業生、教員OB等)や専門家から直接話を聞いたり伝統芸能を教わったりする機会をもつことで、児童は学校やふるさとへの愛着や誇りを深めた。 創立記念式や火災予防研究発表会で学習成果を発表する場をもつことで、児童の表現力が向上した。また、音楽コンサート等を通して児童は表現する楽しさや喜びを味わった。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も地域の教育資源の発掘、活用を心がけ、ふるさとの未来を担う児童の問題発見・解決能力、表現力の向上に一層努めたい。
富山	富山県立富山工業高等学校	クラブ活動を通じた資格取得教育 ～高校生溶接大会出場を通じた指導～	<p>溶接大会に出場することによって、授業で学ぶこと以上の技能を習得し、「優勝」を目指して練習することにより切磋琢磨することができる。また、その知識や技能を資格取得に結び付け生徒のやる気を起こさせる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①与えられた課題の技能を習得し極める。 ②資格取得意欲の増進。 ③溶接作業理論の習得。 ④コミュニケーション力の向上を図る。
長野	御代田町立御代田中学校	学びに向かう力を高める授業づくりに向けて ～専門外の先生方と”技術科「双方向通信」の題材”に取り組んで得られたこと～	<p>遠隔で専門家の指導を受けながら、ブロックとコード両方のプログラムを通してネットでの情報の流れの基本を学ぶ本授業の教材は先駆的で、近隣の技術科の先生方が公開研究につながる等さらに授業利用を進めている。また、本実践のように、専門外の先生方が他教科の授業構想に参画することが本校には根付いてきた。今年度は、オリジナルの学習手引きの編集等を通じた評価研究を進めており、同僚性のもとで互いの指導力を高める可能性を見いだした。</p> <p>本テーマによる取り組みは、学校全体に向学心を高め自己研鑽をする教師を育てると共に、時流に合うよい素材であり、生徒の興味関心を高め自らを学びに向けていくものと結論づけることができる。</p>
長野	東御市立北御牧小学校	主体的に音と向き合い、仲間と共につくる喜びを味わう ～2, 3, 4学年における音楽づくりを通して～	<p>◇主要な研究成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究成果 令和2年度より2年間、2・3・4学年において発達段階に応じた音楽づくりの研究を行った。3・4学年の音楽づくりでは、イメージを4コマのイラストでモデル化した。そして、発達段階に応じて声や技能差が少ない楽器を用い、作りたい音楽を表現するための音楽的要素を考え合ったり、完成した音楽をペアで発表し合ったりした。このようなペアやグループ活動を取り入れた音楽づくりの学習は、児童が主体的に音と向き合い、仲間とともに音楽を作る喜びを味わうために有効であることが示唆された。 2 課題 毎時間行う音楽づくりに必要な即興的に発想を表現する能力を伸ばすためのまねっこ遊び・まねっこタイムが、児童の音楽的な学びの深まりとどのように関わっているか明らかにしたい。
岐阜	山県市立大桑小学校	地域と連携した体験活動を通して培う非認知能力の育成 ～3年間の学校評価の指標分析を通して～	<p>研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の自然体験や生活体験の機会を増やし、様々な体験活動から学ぶ機会を設けたため、児童の非認知能力が高まった。 実施した体験活動 農業体験、環境保全体験、栽培体験、飼育体験、運動体験、野外活動体験、学習体験 非認知能力の推移(令和2年度前期→令和3年度前期→令和4年度前期) 【自己肯定感】自分にはよいところがある(92%→93%→89%) 【協調性】友達や先生に大きな声であいさつをしている(96%→93%→96%) 【意欲】将来の夢や目標をもっている(86%→88%→89%) 【自制心】学校のきまりを守っている(98%→98%→98%)

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
愛知	扶桑町立高雄小学校	夢に向かい、たくましく前進する児童の育成 ～対話的な学びを生む授業を通して～	<p>1 研究成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員がカリキュラムマネジメントの視点を持ち、単元や他教科、日常とのつながりを意識した授業を展開することで、児童は、課題解決のために、自分の知識や経験、友達の意見をつなげたり、汎用的に思考したりしようとするようになった。 ・ どのような「振り返り」を書かせたいのかを明確にして、授業を展開することで、児童は、何ができるようになればよいのかを進んで考えて、取り組むようになった。 ・ 1時間の授業の中だけでなく、授業と授業・活動と活動のつながりまで意識させることで、児童は「振り返り」に自分の成長を具体的に記載し、確かめることができるようになってきた。 <p>2 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まだ、他教科や日常生活とのつながりまで意識できている児童は少ない。今後は、もっと広い視点でのつながりを、子ども自身が意識できるような授業や活動の展開を重視していきたい。
愛知	江南市立布袋中学校	主体的に課題に取り組み、深い学びを実現する生徒の育成 ～各教科の見方・考え方を働かせる授業を通して～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 深い学びに至るためのプロセスについて議論を重ねてきたことで、深い学びを実現しようとする教員の自覚を促し「見通し→活動→振り返り」のスタイルを意識した授業実践ができた。 ・ 授業において「見方」を明確にし、論理的な発言や文章表記をする生徒の姿が多く見られるなど、深い学びの実現に向けて「見方・考え方」を働かせて思考する生徒が増えた。 ・ 3年間継続してきたSGEを活用した人間関係づくりが「学校文化」の一つとして根付いており、温かい人間関係の土台として定着させることができた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 深い学びには質的な差があることから、抽出生徒の経年変化や単元間での記述内容の変化など、具体的な事例を比較・検討する中でよりよい手法を模索する必要があると考える。
兵庫	明石市立錦が丘小学校	外国語を使って話したい知りたい人とつながりたい児童の育成 ～楽しい！わかった！もっとこうしたい！がつながる活動作りを通して～	<p>主要な研究成果</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が外国語を使って人と交流することを楽しむようになり、外国語の学習に対する意欲が高まった。 ・ 低学年から外国語活動に取り組んだことが、中学年からの外国語活動に対して抵抗感をなくし、期待感をもって楽しんで学習に取り組むことにつながった。 ・ 授業の振り返りや学期末のアンケートなどから、児童が「できた」「わかった」と実感し、「もっと～について話したい」「外国語を使って～してみたい」と、次の目標を具体的にイメージする児童が増えた。 ・ 評価については、ルーブリックを作成し、わかりやすく整理できた。パフォーマンス評価について考える際には、ビデオに撮ることで客観的に見ることができ、児童にも目指す姿をわかりやすく伝えることができた。
神戸市	神戸市立葺合高等学校	人と人を「つなぐ」ことでシナジー効果を生み出す ～葺合”架け橋”プロジェクト～	<ul style="list-style-type: none"> ●⑧神戸市の学校づくりの指針である「人がつながり ともに創る みんなの学校」(令和4年5月)を具現化するため、⑩「生徒の学びを見る」授業研究会、⑨キャリア教育プログラム「Fプロジェクト」、③神戸AL(アクティブ・ラーニング)ネットワーク事業の3つのプロジェクトを実施。 ●⑩「生徒の学びを見る」授業研究会は毎月1回、年間9回実施。従来の「教師の指導方法や発問」を見る授業研究会から「生徒の学びを見る」ことに特化したことで、授業者でも気づきにくい生徒一人一人の授業中における学び(アンラーニングも含め)の状況が明らかとなった。参加者も回数を重ねるごとに生徒の学びを見る視点の多様化・多角化が図られ、自身の日常の授業においても還元されるようになった。 ●⑨キャリア教育「Fプロジェクト」を通じて、生徒にも教員にも探究活動の重要性が認識されるようになり、その成果を生かして総合型選抜や国公立大学の学校推薦型選抜にチャレンジする生徒が増加。結果、今春の進学実績は国公立大学合格者が過去最高の66名(過年度生を含め76名、前年比150%)につながった。 ●③神戸ALネットワーク事業では「Be a Global Citizen! 探究から実践へ」をスローガンに学びの成果を学校内に閉じ込めるのではなく、地域社会において具体化・行動化することを求めた。結果、生徒の発案による多文化ルーツの子どもたちの交流活動や、高校生が運営する子ども食堂、ヤングケアラーの啓発動画(神戸市HPに掲載)など自律した活動がみられるようになり、地域や大学等からも高く評価された。

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
神戸市	神戸市立多聞台小学校	立ち上がれ多聞台っ子 ～自尊感情を育み、笑顔があふれる学校の再生～	(研究の成果) ・様々な教育活動を地域、保護者の方々に支えてもらった。多聞台ふれあいまちづくり協議会の方々には、地域行事に子供たちの取り組む場を設定してもらった。夏には神戸よさこいの合同演舞さらに餅つき大会、左義長と会を重ねるごとに子供たちが自信みなぎらせ演舞をすることができた。青少協多聞台支部からの推薦を受け、垂水区から善行青少年として表彰を受けた取組は、しっかりと次の世代へ引き継がれたものになったと確信している。教師と子供たちとの関係づくりを根底に粘り強く取り組んだ結果そして、学校運営協議会の皆様の「一生懸命を応援した結果」であると考えている。 (今後の課題) ・2年目を迎えるが、指導者だけでなく全職員が高い意識をもちこの継承活動の新たな可能性を見出していく必要がある。
奈良	河合町立河合第一中学校	人権教育を基盤とした持続可能な学校運営に向けて ～コロナ禍において生徒や保護者と向き合う中で学んだこと～	本研究を通じて、教職員の連携の強化を図り、「徹底した生徒理解」に努める中で、生徒の「困り感」を適切に深く理解し、軽減しようとする取組の積み重ねの重要性を再認識するとともに共通理解を図ることができた。 また、教職員が生徒一人一人に寄り添い、支えようと親身になって関わっていることが、生徒たちの心に響き、問題事象の激減の要因の一つになったと考えている。言い換えると、「出会い」「発見」「出会い直し」をキーワードとして生徒と向き合ったり、教職員間でのコミュニケーションを大切にしたりする中で、信頼関係を醸成していく取組こそが持続可能な学校運営の基盤ではないかと考えている。
奈良	大和郡山市立片桐中学校	生徒が安全で安心して過ごせる学校づくり ～教育相談の視点を生かした生徒のかかわりを通じて～	成果 時間の許す限り、生徒・保護者とのコミュニケーションを大切にしたいと、教育相談を生徒指導の柱として教育活動を行ってきた。その一つに放課後の教育相談を行ってきたが、担任以悩みの本質をすぐ理解できる体制を整え、案件によっては、市の子育て支援課や県の中央こども家庭相談センターと連携を密にとることができた。教員からも、生徒からの相談内容を教師間で情報共有することも密になり、一人の生徒を全体で見守る態勢が強固になった。 今後も、生徒とのコミュニケーションを大切にし、各関係機関の専門家の支援による相談体制を構築していくことや、教員一人一人の教育相談に対する意識やスキルの向上に努める研修を設けたい。
鳥取	岩美町立岩美中学校	主体的・対話的で深い学び(探求的な学習)の更なる推進 ～Iwami 10 Skillsの育成への挑戦～	○研究の成果 ・総合的な学習の時間に「探究的な学び」を取り入れたことで、探究のサイクルなどの探究的な学びの仕方や、資料収集の方法やルール(出展を示すなど)、表現の工夫(スライドの作成の仕方)などのスキルが身についた。 ・地元岩美町のことをより詳しく知るようになり、郷土愛とともに地域貢献の精神が育まれた。 ・地域をよりよくしたいという目的のもと、地元の小学校、高校との連携をすることができ、小中高で共通理解を図ることができた。 ●今後の課題 ・総合的な学習の時間で身につけた「探究的な学び」を他教科にどう取り入れていくのか。 (教科や単元によって「探究的な学び」に差が生じた。) ・生徒間の個人差が大きい。(できる生徒とできていない生徒との差をどう埋めていくのか)
岡山	浅口市立鴨方西小学校	目指す子ども像の実現に向けた地域と学校の協働活動について ～子どもの自己肯定感を高めるための3つの取り組み～	【主な研究成果】 地域と学校が連携・協働して行った3つの活動は、子どもの自己肯定感を高めるのに有効であることがわかった。 1. 学校環境の整備活動 ・草刈り等のクリーン活動、チューリップ等の季節の花壇づくり ☑チューリップの球根植え等を学校行事として定義し、全校児童が参加 2. 地域の特色を生かした教育活動の充実 ・体験農園活動を全学年が年間を通じて行い、地域の人とぬくもりのある交流を実施 3. 困人と児童が、同一テーマで話合う「熟議の会」を実施 ・親しみのあるテーマ設定と児童が大人に意見を言える場作り

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
広島	広島市立二葉中学校	生徒一人一人の「夢の実現」に向けた学力向上の研究と取組 ～生徒全員の第一希望先への進路決定を目指して～	<p>【研究主題の主要な研究成果】</p> <p>○「ペア・グループ学習を通じた深い学びの創造」を目指した授業づくりを進めたことで、多様な考えを受け入れ一人一人の良さを認め合う支持的風土の醸成につながった。生徒の学習改善や教師の指導改善につながる学習評価の在り方の研究に取り組むことで、評価を通じ自己の成長を振り返る機会が増えた。これらの取組により学校評価で「自分には良いところがある」の項目への肯定的評価が昨年度73.4%から今年度74.8%に「学校に来るのは楽しい」の項目が昨年度89.4%から今年度91.4%へと改善がみられた。</p> <p>○自主学習の取組では、月ごとに毎日自主学習に取り組んだ生徒一覧を掲示し、月ごとの変化が分かるようにしたり、100時間以上の自主学習を行った生徒に校長から感謝状を贈る取組を行ったりしたことで、100時間以上の自主学習を行った生徒が飛躍的に増えた。</p>
広島	広島市立大塚中学校	「やっぱり学校っていいな」をめざして ～モデリングを活用した生徒理解と授業改善～	<p>「モデリング」は、対象物をモデル(見本)とすることで同じような動作や行動を促すことであり、人の成長過程においてこの「モデリング」が学習や成長を促すとされる。ここから教師が基本モデルに学びながら生徒に対応することにより、学校全体で共通の意識をもって生徒理解や授業改善にあたり、生徒が安心して学べる環境が構築できる。</p> <p>生徒理解において、「どうしたの?」「困っていない?」と問いかけ、「～すればよかったと思うだね」とメタ的言葉を伝えることで、生徒が受け入れてもらえたと安心できる。授業改善においても「わからないことはない?」と尋ね、「どうしてそう思ったの?」と深め、仲間の発言につなげることを丁寧に行うことで安心して発言ができ、授業の質が変化することは実証された。</p> <p>課題として、常に教師が意識できるように、様々な場面で取り上げ、繰り返し説明する必要がある。モデルとなる教師を「バディ」とするOJTをシステムとする必要がある。</p> <p>教師の転出入が多い今、モデルとなる言葉で実践する教師とそれにつながるためのシステムとしての人材育成が急務である。</p>
山口	長門市立油谷小学校	道徳科における指導と評価の一体化に係る研究 ～「やまぐちっ子の心を育む道徳教育」プロジェクト推進校としての一考察～	<p>■研究の成果・今後の課題</p> <p>「指導と評価の一体化」これは、授業づくりの一丁目一番地とよく言われる。しかし、道徳科における指導と評価の関係は、難解な点が多い。そのため、本校教職員の中には、よく理解しないまま道徳科授業を実施し、学期末には評価を行っていた者もあったと考える。そこで、教職員が一人一授業を提案する中で、時間を掛けて評価の在り方について研究に取り組み、共通理解を図っていった。その共通理解から道徳科授業の質的向上が生まれ、地域・保護者の方々を巻き込んだ道徳教育が進められるようになった。その安定した環境の中で子どもたちの心が豊かに育まれていると感じている。教職員の日々の努力がこの成果に結びついているという自覚の芽生えが最大の成果である。</p>
高知	土佐市立蓮池小学校	安全教育の日常化への挑戦 ～凡事徹底・凡事一流をめざして～	<p>○各学年で育成したい安全に関する資質・能力を検討するとともに、各学年の重点を明確化した年間指導計画を作成し取り組んだことにより、生活科、総合的な学習の時間、特別活動を中心にそれぞれの教科等のねらいや視点に沿って、実践することができた。</p> <p>○地域や各専門機関等、多くの講師を招聘し児童の活動について専門的な立場から助言を受けたことで、災害に対する認識を深め、児童が意欲的に活動に取り組むことができた。児童が地域や関係機関等に発信する取組は、多くの笑顔を生み、安全教育への原動力につながった。</p> <p>○本校での実践後に、安全教育先進校を視察したり、オンラインで交流したりすることを通して、本校の実践を改めて振り返り、次年度への課題を明確化することができた。さらに、有識者の知見を聞く機会を得て「安全教育の評価」という次なる研究課題を見出すことができた。</p>
福岡	鞍手町立古月小学校	学校組織を育てるための人材育成の取組 ～「古月小学校人材育成計画」を位置づけた人材育成システムの運用～	<p>本年度も、人材育成計画を位置づけた人材育成システムを構築し、メンター・メンティ会議を定期的実施して、学校組織全体で人材育成に取り組むことができ、教職員の授業力、生徒指導力を含めた学級経営力が向上した。</p> <p>メンターの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 無理のない計画で、メンティの意向を尊重しながら実践できた。 ○ 授業をお互いに見合い、授業改善に役立った。 ○ 日常的に安心して相談することができた。 ● 伝え方(どのように伝えたら伝わるか)を考え、メンターとしての力量を高めていく。 ● 色々な相談に対応できるように、メンター自身が余裕をもつ。 <p>メンティの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ メンターがいるので、安心感があり、多くのことを学ぶことができた。 ○ 日常的に気軽に相談して、アドバイスしてもらい、自分の視野が広がった。 ○ 心にゆとりができ、自分の課題を明確にすることができ、モチベーションがあがった。

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
福岡	上毛町立唐原小学校	確かな読みの力を育てる国語科学習指導 ～子どもの問いを解決していく言語活動を通して～	<p>成果と課題</p> <p>○文学的文章において、「読むこと」の内容と系統表を作成すると、言語活動を焦点化することができ、児童に学習のゴール(ねらい)を意識させた授業づくりをおこなうことができた。</p> <p>○考える・学び合う段階とまとめる・振り返る段階の言語活動の「問い」を異なるものにするすることで、それぞれの段階の交流を活発にすることができた。また、グループで考えたことをもとに、まとめる・振り返る段階で、めあての「問い」を解決しようとする意欲をもって児童が取り組む姿が見られた。</p> <p>○「～というところから、・・・という気持ちが分かります」といった、考えの根拠となる叙述をもとに、自分の考えをつくり表現するという学習の繰り返しで、場面と場面をつなげたり比べたりしながら、登場人物の気持ちの変化を捉えることができるようになってきた。</p> <p>●「問い」について交流し、自分の考えをまとめることができたが、子どもの新たな「問い」を生み出し、次時につなげていく授業づくりには至らなかった。次時の学習に生かすための手立てを工夫し、学んだことが次の学びにつながり、問いが連続できるような授業づくりを研究する必要がある。</p>
福岡	新宮町立新宮東小学校	「わかった」「できた」を実感する算数科学習指導 ～3つの手だてを位置付けた学習過程の工夫を通して～	<p>【問題提示の工夫から】</p> <p>○問題を一部隠し情報不足で提示したり、児童に必要な情報を見つけさせたりするなど、児童に課題解決の意欲をもたせる工夫</p> <p>●自力解決や交流時間を確保するための「問題提示」から「見通す」段階の時間削減</p> <p>【交流の場の設定から】</p> <p>○友達の考えを説明させたり、ICTを活用し、視覚的に交流させたりするなど、発達段階に応じた交流活動の工夫</p> <p>●交流活動の目的の明確化</p> <p>【振り返り活動の充実から】</p> <p>○授業前後の自己変容を自覚させる振り返り活動の工夫</p> <p>●メタ認知向上のため、ICT(グループフォーム等)を積極的に活用した振り返り活動の設定</p>
福岡	築上町立上城井小学校	主体的に学ぶ児童を育成する算数科学習指導 ～複式学級におけるICTの有効活用を通して～	<p>【着眼1】 複式学級の特色を活かした指導方法の工夫</p> <p>○自分たちで授業を進めていくことで、リーダーの児童が意欲的に授業を進行し、その他の児童も質問合ったり、意見を出し合ったりする等、主体的に授業を進める力を身に着けることができた。</p> <p>●読み取ることが苦手な児童もいるため、よりシンプル・ビジュアル・デザインに特化したユニバーサルデザインを取り入れた「学習の進め方」が必要である。</p> <p>【着眼2】 ICTの有効活用</p> <p>○グループジャムボードを使い、それぞれが出した意見を共有していくことで、みんなで一つの課題について考えを出し合い、それを基にまとめを考えることができ、自分たちで学習を進めることができた。</p> <p>●みんなで同じ画面を共有するため、誤った操作で友人の文章を消してしまうなど、トラブルが起こることがある。</p>
長崎	佐世保市立柚木中学校	ふるさと学習を起点に思考力・判断力・表現力の育成を図る教育課程の工夫 ～心豊かで自ら学ぶたくましい生徒の育成をめざして～	<p>令和4年度全国学力・学習状況調査質問紙の結果では、協働的な学びの中で意見を交換し考えを深めることや、自ら見つけた課題に主体的に取り組む探求学習が、身に付いていることが表れていた。3教科の調査結果でも、「思考・判断・表現」力の伸長が見られ、深い学びが推進されていると言える。</p> <p>取組や成果が地域に今一つ浸透していなかったのが課題であったが、本研究助成金により、生徒が大筆等で制作した巨大ポスターや、1人1台端末で撮影した地域の写真を集めたフォトブックを披露することにより、広く知らしめることができた。また、生徒が学習物を保管し今後の学習に生かせるような手立てをとることもできた。</p>
長崎	島原市立第四小学校	命と学びの保障と新しい教育課程へのアプローチ ～教育活動を「つなぐ」学校マネジメントから～	<p>○学校マネジメントにより教育活動を「つなぐ」「つながりを意識する」ことで、効率的に進め、様々な成果が生まれた。</p> <p>・働き方改革や校務化ICTの取組が、教職員の時間を生み、授業の質を高め、学力向上につながった。</p> <p>・GIGAスクール構想への取組が学力向上だけでなく、「選択制・多様性」を意識した、一つの学習ツールとして児童の学び方が変わった。</p> <p>・ハイブリッド学習やタブレットを活用した授業実践をホームページで周知することにより、Wi-Fi環境整備が整いタブレット活用による家庭学習が進んだ。</p> <p>・校務のICT化やペーパーレス化が、本校独自の学力テストの予算を生み出した。</p> <p>・人材育成の取組が、学校の活性化や教職員の資質向上につながった。</p> <p>・働き方改革の取組であるPT会議や学年部会が、スクールリーダーの育成につながった。</p>

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
長崎	松浦市立志佐中学校	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ～問いに対して全員で追及する各教科の単元づくり～	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全ての教科で単元学習を繰り返し行ったことで生徒の書く力を高めることにつながった。 ○単元の学習課題(問い)の設定を大切にしながら協働的な学びを充実させたことにより、自分の考えを深めたり広げたりすることを実感させることにつながった。 ○教育課程全般を通して職員と生徒が「自律的」「協働的」に学ぶことを目指して取り組んだことが、生徒の主体性を高め、学校全体の活性化につながった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> △一つ一つの授業の学習課題(めあて)が、「学習内容と学習活動とを密接に関連させているものになっているか」、「学習課題が子供に本当に届いているのか」を常に検証していく必要がある。 △はじめから文章を書こうとしない生徒や思考を伴う場面で自分の考えを持とうとしない生徒が一定数いる。日々の授業を中心にどこにつまずきがあるのかを見取ることや、家庭と連携して学習習慣を身につけることが必要である。
熊本	御船町立御船中学校	学力の基盤となる基本的生活習慣の育成 ～生徒の主体的な活動と保護者と連携した啓発活動を通して～	<p>【主要な研究成果】</p> <p>1 研究の成果</p> <p>コロナ禍の休校明けの令和2年6月に比べて、令和4年6月には生徒の基本的な生活習慣や学力に関して、主に次のように改善が見られた。</p> <p>(1) 基本的な生活習慣の定着について</p> <ul style="list-style-type: none"> 平日にスマートフォン等を3時間以上使用する生徒の割合が22.4%から3.4%へ減少した。 朝食を毎日食べる生徒の割合が74.5%から84.6%へ増加した。 午後11時までに就寝する生徒の割合が57.0%から67.0%へ増加した。 1か月に1冊以上の読書をする生徒の割合が68.5%から93.5%へ増加した。 <p>(2) 学力の向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎時間の授業で「わかった」「できた」と感じる生徒の割合が44.8%から64.7%に増加した。 <p>2 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンやゲーム機依存が解消できずに、深夜0時以降に就寝する生徒が依然として約5%おり、関係機関等と連携した個別の家庭支援も必要である。
熊本	芦北町立大野小学校	へき地校の存続に関する一考察 ～へき地校には教育の原点があり、へき地校は地域と人々を元気にする～	<p>児童数の減少に直面するへき地校を存続させるために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな自然と人情に囲まれたへき地校ならではの特色ある行事を進めていく。 ○特に地域と交流する行事を多く位置づけることで、学校から子どもたちの元気を地域に届けることができ、地域と学校の距離が縮まってくる。 ○へき地校ではいじめや不登校が起きにくく、地域での受け入れ体制を整備することで、不登校等で悩む他校の家族を助けることができるかもしれない。 ○それらのニュースを積極的に発信し、評価されることで、学校を中心としたへき地に活力が出て来る。
宮崎	西都市立穂北中学校	新時代における総合的な学習の時間「さいと学」の再構想 ～学校再編を視野に入れた小規模校の先行トライアルとその波及～	<p>本研究は、市独自の総合的な学習の時間プログラム「さいと学」を、地域との協働を前面に押し出した内容へと再構築する取組をまとめたものである。R8に市内の中学校が1校へと再編・統合されることもあり、小規模校・穂北中の先行トライアルを参考に全中学校がベクトルをそろえていく動きが加速しつつある。</p> <p>教育支援人材ネットワークの形成、全市的なゴール的取組の構築、ゴールへ向けた系統的取組の拡充などにより、生徒や地域力の向上などが成果として表れつつあるが、この取組を持続可能なものへと練り上げていくことが今後の課題である。</p>
鹿児島	鹿屋市立鹿屋小学校	豊かな未来を切り拓く子供の育成 ～新たな価値をつくり出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のある授業を通して～	<p>「見方・考え方を働かせた学び」を軸に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を、一体的に充実させた授業に取り組んだ。具体的には、導入場面における自分の問いの設定・解決方法の自己選択、展開場面におけるICTを活用した考えの共有・教師の適切なファシリテートによる学び合い、終末場面における自分の考えの再構築の場の設定・振り返りの充実などに取り組んだ。</p> <p>成果として、「目的意識をもち、自立的に学ぼうとする」、「学び合い、異なる考えを組み合わせようよく解決しようとする」、「見方・考え方を働かせ、考えをつくりだして解決しようとする」、という子供の姿がみられるようになった。新しい授業デザインの方法を整理することができた。</p>

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
鹿児島	鹿児島市立玉江小学校	よりよい生き方を求める子供の育成 ～「利他の心」を共に育む道徳科授業を通して～	<p>【研究の成果○】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちのゴールを意識して、中心発問や基本発問、補助発問など様々なパターンの問い返しを考えることにより授業展開の多様化につながった。＜発問＞ ○ 気持ちを表す表情やハートの絵、線の太さなどの板書の工夫は、子どもたちの思考を可視化するために効果的であった。＜板書＞ ○ 研究授業や授業研究を通して、テーマ型の授業の概要をとらえることができ、自身の授業にも生かすことができた。＜教材研究・授業構想シート＞ ○ ワークシートを活用することで、子どもたちに考えさせたいことを焦点化することができた。自分と向き合う時間を多く取り入れることができた。＜ワークシート・ノート＞ ○ 道徳コーナーで子どもたちが学習したことをふり返る姿が見られ、道徳への関心の高まりを感じた。＜道徳コーナー＞ <p>【今後の課題●】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの本音を引き出す発問の工夫が必要である。＜発問＞ ● 子どもの思考が分かるワークシートや道徳コーナーの効果的な活用が必要である。＜ワークシート・ノート＞ ● 子どもの自己評価(本時の振り返り)の観点について検討し、継続実施していきたい。＜評価＞
鹿児島	肝付町立内之浦小学校	考え、議論する道徳授業の創造 ～ICT機器を活用した対話活動の工夫について～	<p>1 研究成果</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自己の生き方についての考えを深める道徳指導について、先進校や県総合教育センター資料等と本校研究を比較/検証し、効果的な基礎研究ができた。 (2) タブレットPCの機能(特にロイロノート)を使い、自分の考えを表現する効果的な指導法について研究し、実際の授業で検証することができた。 (3) ICT機器を効果的に活用する授業設計について、実践の紹介等の協議を重ね、実践につなげることができた。 (4) 地区道徳研究協議会や町情報教育担当会で成果報告の公開ができた。 <p>2 研究の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 児童が自己の思いを表出するため、ICT機器の活用場面とノート記入の場面とを、効果的に活用する研究がさらに必要である。 (2) ICT機器のもつ様々な機能について、さらに研究を深め、より効果的な活用法を研究していく必要がある。
鹿児島	知名町立住吉小学校	主体的に学び、事故の考えを持つ子供の育成 ～学び合う活動と確かめ・見届けの時間の充実を通して～	<p>【視点1】学び合う活動の充実の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学習過程のバランスが崩れると、終末の段階で時間不足になることがあることを意識して授業を組み立てることで、子供の発達段階に応じた書く活動の取組ができた。 ● 書く活動を通じた対話で、自分の考えを変容させることができなかった。書く活動の更なる工夫の必要性を感じた。学び合いがまだまだ自分の考えの発表のみになっているため、今後、学びを深める工夫をしていく必要がある。 <p>【視点2】確かめ・見届けの時間の充実の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 習熟の時間を確保するために、導入や学び合いの活動の時間を考える必要があり、学習活動の精選について考えることにつながった。 ● 習熟の時間に時間をかけすぎると、それまでの学習過程が簡単になり、かえって学習目標が達成できないことがあるので、各学習過程においても本質を押さえてしっかりと指導していく必要がある。

令和4年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
沖縄	沖縄県立那覇みらい支援学校	新設校における学びの保障と社会に開かれた教育課程の編成と実施の検証 ～知的障害にある児童・生徒の教育の実施に向けて～	<p>【研究の成果】</p> <p>本校は令和4年に開校した知的障害・肢体不自由・病弱の複数障害種に対応した新設校で、児童生徒の実態や困り感が多岐に渡っています。そこで、学習を進めるうえで発達をつまづきを多角的に捉え、その改善・克服を図るための具体的な指導内容や方法を適切に設定することが求められています。</p> <p>これらのことにより、本研究では、自立活動の教材の充実を図る教材研究に取り組みました。</p> <p>①「こぐま会」教材について こぐま会教材は、知的好奇心を刺激する教材・教具が領域別に設定されており、具体物を使って試行錯誤しながら繰り返し学習できることから本校児童生徒に有効だと考えました。</p> <p>【例1】対象図形の基本的な理解: 対称図形おりがみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・断ることや線に沿ってハサミで切ることで手先の巧緻性の学習も含まれている。 ・実際に手を動かして形を作ってみることで「対象図形」の理解が深まるとともに、仕上がりを想像しながら楽しむ様子が見られた。 <p>【例2】図形: 正方形パズル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に、手に持って動かすことで図形感覚を養うことに繋がる。 ・見本の形を作ったり、1枚だけ動かして形を変化させたりと位置・数・形を複合的に考え取り組む様子が見られた。 <p>②教科学習の基礎として モンテッソーリ教材を参考にし児童生徒が触ってみたい、やってみたいと主体的に取り組める教材を意識して作製に取り組みました(木材を利用して自作教材や100円ショップを活用した教材)。</p> <p>【例1】ペグ差し: 目と手の協応能力、手の巧緻性を高める。 (細かく指先で摘む・小さな穴にはめる)</p> <p>【例2】ボール落とし:</p> <ol style="list-style-type: none"> ①目と手の協応能力(摘まむ・腕を伸ばす・落とす) ②数量の基礎(5のまとまり・10のまとまり等)
沖縄	那覇市立城北中学校	生徒会活動を中心とした自治的能力の醸成と自立の実現 ～ICTを活用し自ら考え行動する子どもの姿～	<p>研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自律」と「自治」に関する力を高めることができた。その中でも、特に「他者を巻き込み行動する力」や「情報活用能力」、「課題発見・解決力」を育むことができたと考える。 ・職員研修等で、生徒が自らの考えを説明する機会を確保することができた。 ・メディアに掲載されたことにより、様々な学校との交流が生まれた。 <p>研究の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践が形骸化したり、その目的を見失ったりしないために、「職員から職員」ではなく「生徒から生徒」へと実践が引き継がれるシステムを構築する必要があると考える。 ・校務分掌や専門性の垣根を超えて、前向きに教員同士が連携し、子ども達の活動を支援していく雰囲気をつくることが今後、重要になると考える。

令和4年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
神奈川	川崎市立小杉小学校	多様な児童が在籍する特別支援学級での指導・支援 ～学区の中で共に学び、安心して学校生活を送ることができる ための手立ての実際～	<p>多様な教育的ニーズのある児童が、安心して楽しく学校生活を送るために、学習環境を整えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の指導がよりよいものとなるよう、支援学級担任間での情報共有と指導方法の研究を行った。 ・有意義な交流活動ができるよう、交流学級担任との情報共有と連携した指導を行った。 ・教職員や児童とのよりよいかかわりの場面を設定した。 ・より児童が集中して学習に取り組める環境の整備につとめた。 ・肢体不自由児童が、より授業や日常の活動に参加しやすい環境と道具を準備した。 <p>学習環境が整ったことにより、さらに成功体験を積むことができ、自信が付き、苦手なことにも積極的に取り組む姿や新しいことに挑戦しようとする姿が見られるようになった。</p>
新潟	三条市立月岡小学校	課題を主体的に解決する力を身に付ける自立活動の工夫 ～自己選択・自己決定を中心に、プラスの行動にアプローチする 指導を通して～	<p>○活動内容やルール等について、児童が自己選択・自己決定したことで、「児童が主体的に活動する」という姿を実現することができた。</p> <p>○プラスの指導を取り入れることで、児童がよりよい姿に対する見通しをもつことができ、自らの課題を解決していくことができた。</p> <p>○児童が自らの課題を主体的に解決しようとしたことで、自立活動以外の場面でも適切な言動が見られるようになった。</p> <p>○感情をコントロールしながら自らの課題と向き合っていく力を身に付けさせる指導の工夫が必要であると感じた。そのためには、児童の自己肯定感の向上を図るとともに、課題解決のスキルを具体的に指導していくことが不可欠であると考えている。</p>
新潟	長岡市立南中学校	生徒の主体性を引き出し自発的な活動を促す部活動経営 ～男子バスケットボール部での実践を通して～	<p>○研究の成果・今後の課題</p> <p>令和3年6月末に実施したアンケートでは、「(1)主体的に練習に取り組んでいますか？」という問いに対して、8人の生徒(全体の32%)が「あまりそう思わない」と回答していた。また、「(2)部活動にやりがいを感じますか？」という問いに対しては、10人(全体の40%)の生徒が「あまりそう思わない」と回答していた。実践終了後の令和4年6月下旬に同じアンケートを実施したところ、(1)の質問については2人(全体の8%)、(2)の質問については4人(全体の16%)と数値が変化した。また、回答が変わった生徒の理由の欄には、「自分たちで課題を見つけて自分たちで解決できたことがうれしかった。これからも頑張っていきたい」、「先輩のように上手になれるように、これからも前向きに頑張りたい」などの記述が見られた。アンケートの結果やこれまでの生徒の記述から、次のことが明らかになったと考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が活動の中心となり、互いに教え合うなど自分の考えを説明したり、自ら練習メニューを設定したりすることは、自分たちで部活動を運営し、楽しみながら練習に取り組むなどの意欲を高めることに有効に働く。 2 生徒たちの小さな変化を見逃さずに、顧問が場面に応じて適切に働き掛けることは、自らが少しずつでも成長をしているのだという実感を与え、部活動に対する意欲ややりがいを高める。 <p>本実践で掲げた三つの手立てにより、全体的に、部活動における生徒たちの主体性が高まり、やりがいを感じる姿が生まれたと考える。しかし、実践後(R4.6月)のアンケートにおいて、「主体的に練習に取り組んでいますか？」という質問に対しては2人(8%)が、「部活動にやりがいを感じますか？」という質問に対しては4人(16%)が、「あまりそう思わない」と否定的な回答をしている。これらの生徒はいずれも2年生であり、顧問の見取りでは、今年6月の新チーム結成以降も、変化が見られない状況である。彼らの実践後(R4.6月)のアンケートの記述では、「ミーティングはこれからも続けてほしいが、全員に問いかけるような形にして欲しい。一部の人がばかりが意見を言っている。」、「色々な課題を克服できた。でも、コート上だけでなく、それ以外の面も振り返られるようになってほしい。」、「楽しくやればいい。大会の結果はこだわらない。」など、ミーティングについて、話し合いの方法や内容、部活動に対する個々の温度差を見取ることができる。これらのことから、すべての生徒の主体性が高まったとは言い切れない。これらの生徒の主体性とやりがいを高めていけるよう、今後も新たな手立てを考え、実践を続けていきたい。</p>

令和4年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
新潟	五泉市立川東中学校	生徒が「問い」をもって学び続ける数学の授業づくり ～生徒自らの問う力を高める指導の工夫～	<p>本研究では、生徒の「問い」を軸にして、「生徒が『問い』をもって学び続ける数学の授業づくり」について、授業構成と教師の支援の方法について明らかにすることが目的であった。手立てによって、生徒の「問い」をもつことについての意識の変容と「問い」の質的な変容が見られるかについて、中学校1年生「文字式」の単元で授業実践を行い、分析を行った。</p> <p>【成果】 アンケート項目「数学の授業で疑問やわからないことを発言することははずかしいことだと思う」について、肯定的な変容が見られた。これは、教師が「問い」を軸として授業を実践した結果、「問い」に対するよさを実感し、意識が変容してきたと考えられる。また、「問い」のよさを実感していても、授業中に発言することが難しい生徒は、書き出すことのよさも実感することができたと考えられる。書き出された「問い」の質については、大きな変容は見られなかったが、アンケートの記述から、生徒は、学級全体で仲間と考えながら「問い」を解消していくことで学びが深まることを実感していることが伺える。</p> <p>【課題】 本研究では、「問い」の定義については数学的な質や視点を広く捉えるものとした。そのため質の分析を細かく行うことができなかった。生徒は、様々な視点で「問い」をもつことがわかったので、「問い」の視点についてもある程度分類して、「問い」の実態を明らかにしていきたい。</p>
長野	諏訪市立諏訪中学校	横断的図書館利活用の推進 ～個々対応を基本として～	<p>【成果】 ・教科主任の協力を仰ぎ作成した図書館年間利用計画表に基づき図書館運営の活性化を図った。年度始めに全教職員向け利用案内を図書館で行うことにより図書館活用の認識が広がり、横断的に教科担任と連携することで授業への資料提供が定着した。円滑な相互貸借システム利用を含む郷土「諏訪学」の資料活用も年々充実してきている。年間利用計画表の定期的更新と多教科との連携継続が重要である。</p> <p>・フロアワークに重点を置き生徒への個々対応を意識した支援に取り組んだ。段階的オリエンテーション、司書教諭と協働で行う読書単元、図書委員会企画、読み聞かせ活動は、生徒の読書意欲の向上と他者へ発信する豊かな読書活動に繋がっている。</p> <p>【課題】 ・R4年3月から図書館内にICT環境が整い、資料と多様な情報を併用した学習ができるようになった。更にニーズに沿い、情報源を効果的に活用する学習環境と落ち着いた読書空間を合わせて”学びの場”を提供していきたい。</p>
長野	駒ヶ根市立東中学校	国語科における”自らの学習を調整する”生徒の育成を目指した「振り返りシート」の研究 ～生徒の記述の変容に着目して～	<p>『自らの学習を調整しようとする側面』の指導と評価の一体化を目指し、振り返りシートについて、実際の生徒の記述から分析を行った。特に「OPP(One Page Portfolio)シート」の有効性が示唆され、次のような成果が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が何を学んだのかが振り返りシートに具体的に表れるようになった。 ・本時学ばせたかったことを生徒が理解できているのか、生徒が正しく学ぶことができているのかが見えてくるようになり、教師側の授業改善につなげることができている。 ・教師自身が単元全体を見通して授業を行うことができ、生徒にとっても「この単元で何を学べばいいのか」という意識が明確になっている。 ・タブレット端末を活用することで、配布・回収・コメント・記述内容の共有等が容易になり、深い学びにつながっている。
静岡	静岡県立浜松大平台高等学校	1枚の手紙から学ぶ太平洋戦争、さらなる平和教育を目指して～実物教材とICTを活用した魅力ある授業に向けて～	<p>1. 成果 ・定時制の生徒にあった学習内容（ICTの活用による教材の可視化）を展開し、学習上の困難を改善・克服させ、生徒一人ひとりが授業に参加することができた。</p> <p>・実物教材（戦時中の曾祖父の手紙など）を使用して興味関心を高め、さまざまな見方・考え方を働かせることができた。</p> <p>2. 課題 今後の授業においても積極的にICT機材を使用し、より充実した授業を展開できるように教材研究を行っていききたい。今後は、ICTを活用した調べ学習の時間を設け、戦争についての研究課題を設定し、レポート・発表を行うなど生徒主体の授業を行いたいと考えている。またこの手紙などの遺品からまだわかっていない部分については調査・研究を継続していききたい。</p>

令和4年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
愛知	愛知県立愛知商業高等学校	起業家育成から考える商業教育の成長戦略 ～日本の未来を創る商業教育を目指して～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の成長戦略である「スタートアップ」は教科「商業」が飛躍するチャンスであるとともに、実際のビジネスに精通した人材を社会に輩出できる。 ・授業のあらゆる活動を通じて生徒が「好き」「楽しい」という感覚を獲得し、その感覚が「主体性」を育み、更なる深化へとつながった。 ・ケースメソッドや多くの意見共有により、唯一絶対の答えがない経済社会で活躍するための多面的・多角的な視野を獲得することができた。 ・ロジックツリーやSWOT分析などのフレームワークを活用することで、論理的な考察ができるようになった。 ・起業を学ぶことが経済社会を学ぶことにつながり、社会で活躍するビジネスパーソンとして必要な資質、能力を効率よく育成することができた。
兵庫	たつの市立龍野東中学校	地域社会・企業との協働による総合学習の充実 ～SDGsを柱に置いた体験活動～	<ul style="list-style-type: none"> ・たった5日間に多種類の内容を扱ったため、目まぐるしく生活させてしまった。 ・様々な体験活動の機会が奪われたコロナ禍の中学生活で、普段のトライやる・ウィークではできなかった経験をさせることができたと思う。 ・「トライやる」アクションを行うにあたり、地域社会や企業の方々と協働することで、校内で行うものであっても、校外で行うものであっても、社会で働く大人の姿を見せることができた。 ・今後は、数時間に分散させたり、規模縮小をして行ったりなど、指導内容を総合学習として扱い、学習カリキュラムへと落とし込み、今後の学習に繋げる。
鳥取	米子市立東山中学校	現在から未来へとつながる歴史学習 ～世界遺産のESD教材開発を通して～	<p>1・研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史の授業についての興味・関心が高まり、過去の学習でなく、未来に結びつけて考えることのできる生徒が増えた。 ○タブレット端末を使った授業に意欲的に取り組み、複数の資料を組み合わせる考えようとする生徒が増えた。また、プレゼンをする際に、図や表、シンキングツールを使って説明することができるようになった。 ○日本の世界遺産について興味を持って調べ、課題解決学習に積極的に取り組むことができるようになった。 <p>2・今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今回の取り組みが、個人の研究として終わらず、学校全体や米子市の共通したものになるよう継続していきたい。 ○未来につなげる学習を公的分野や地理的分野でも進めていきたい。
岡山	岡山県立東岡山工業高等学校	思考力・判断力・表現の伸張を図る試み ～ICT機器を活用してSDGsを自分ごとに～	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○SDGsに関する基本的な知識や現代社会が抱える問題点について関連する図書やネットから情報を収集する活動を通して、自分たちと実社会との繋がりに目を向けSDGsを自分ごととして認識し理解できた。 ○複数の媒体から入手した情報について情報源や内容を判断して取捨選択することで情報の扱い方を学び、SDGsが目指す持続可能な社会の実現に向けて自分なりの対策案や解決案を探求できた。 ○プレゼンテーション用の資料作りでは、伝わりやすい言語表現の工夫やchromebookの機能を活用した自由な発想・展開が見られ主体的な態度で取り組めた。 ○プレゼンテーションの相互評価により他者理解・自己理解が進み、得た知識や経験を今後の生活に活かそうとする意識に繋がった。 ○chromebookを活用することで生徒の進捗状況をリアルタイムに把握でき、個々に寄り添った学びを促進できた。
山口	下関市立養治小学校	子供たちの表現を豊かにする指導の試み ～社会や生活との豊かな関わりの場の設定等を手立てとした 図画工作科における指導展開の工夫を通して～	<p>本年度は、第3学年において、図画工作科・国語科・総合的な学習の時間を中心に、年間を通して教科等横断的な学習展開をした。年度末には、市内にある水族館や公共施設を利用して作品展を実施することができた。総合的な学習の時間で「海」や「いのち」に関する学びを積み重ねた子供たちの作品は、造形的に多様な魅力を持ち、その作品を通して多くの思いが市民や保護者・地域の人々へ伝わった。また、作品の展示や制作に至るまでの学習展開の中で出会った多くの人々や生き物は、子供たちを成長させた。</p> <p>今後の課題は、制作過程や表現の動機付けとなった出来事について保護者や地域へ具体的に説明し、一層の協力を求めていくことである。</p>

令和4年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
山口	周南市立今宿小学校	評価を生かした道徳教育の充実に向けて ～道徳推進教員としての取組～	<p>研究の成果・今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「指導案の工夫」、「評価に視点を向けた研修の充実」、「評価の実践」のステップで研究に取り組むことで、全教員が試行錯誤しながら、実践を通じて深まる研究となった。(授業改善に生かす評価の充実や道徳科の授業における児童の学習の様子の変容を本人や保護者に正確に伝えるための見取りや評価文など) ・年間を通じて「道徳に関する情報発信」を行うことで、掲載した内容を基に授業改善を行う教員や職員室での道徳科の会話が自然なものとなった。 ・目の前の児童の変容を正確に見取るためにも、教員の道徳科における正しい理解と道徳科の目標に基づいた授業を柱に、見取りの視点を明確に示し、信憑性のある評価をしていく必要がある。課題として、教員の学びの場の確保が挙がる。 ・児童が学びの変容に喜び、充実感を得るためには、道徳科の授業でめざすべき姿を児童自身が理解していくことが重要であり、今後の課題である。
宮崎	西都市立妻北小学校	言語活動を通した外国語活動・外国語科の授業づくり ～学級担任と児童が共に楽しむ授業をめざして～	<ul style="list-style-type: none"> ○目的意識・相手意識を大切にした言語活動を工夫することで、伝わる喜びやコミュニケーションの楽しさを味わわせることができ、外国語活動・外国語科の授業を「楽しい」と感じる児童の割合が増加した。 ○授業実践を通した基本的な授業づくりの在り方について、学級担任の理解を深めることができた。また、学級担任へのサポートを充実させることで、外国語の授業に対する不安感を軽減させることができた。 ○研修や児童作成物の掲示を通して、全職員に学習内容や指導方法の周知を図り、外国語教育への関心を高めることができた。 ●言語活動を通して授業の中で身に付けた力について検証していく必要がある。 ●今後は、学級担任自らが授業をデザインできるようにしていくために、支援を続けていく必要がある。
鹿児島	出水市立西出水小学校	薩摩おれんじ鉄道と連携した修学旅行 ～地域鉄道と学校教育とのコラボレーション～	<p>1 成果</p> <p>(1) 修学旅行でのおれんじ鉄道利用者数と他校への拡がり</p> <p>令和元年度 1件 34人 令和2年度 9件 450人(含西出水小1件91人) 令和3年度 17件 1187人(含西出水小1件110人) 令和4年度 11件 579人(含西出水小1件103人)</p> <p>(2) マスコミによる報道の推移</p> <p>令和元年度 新聞 1件 令和2年度 新聞 1件 テレビ 1件 令和3年度 新聞 4件 テレビ 3件 令和4年度 新聞 4件 テレビ 3件</p> <p>(2) 市及び市教委の支援 校長会、教頭会におけるTV映像の放映 市報11月号での掲載</p> <p>(3) 西出水小学校でのおれんじ鉄道利用増 従来:6年生修学旅行(西出水→八代または西出水→川内) 2年生一日遠足(西出水→出水) 令和4年度 3年生社会科見学(西出水→高尾野) PTA研修視察(西出水→川内)</p> <p>(4) 鉄道学校モニターツアー実施 2月26日(日)10組27人参加。鉄道学校体験を実施し、動画撮影を行った。今後ユーチューブにアップし肥薩おれんじ鉄道のHPにリンク先掲載。これにより児童生徒や教師が各自のタブレットで動画視聴が可能となる。</p> <p>2 今後の課題</p> <p>(1) 熊本県の利用者増 令和3年度 6校 285人 令和4年度 1校 32人</p> <p>(2) 継続した修学旅行の利用者増 毎年500人から1000人が利用する体制づくり(ユーチューブでの啓発を含む)</p>

令和4年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
鹿児島	薩摩川内市立東郷学園義務教育学校	義務教育学校だから創造できる学びに向かう力を育む社会科学学習指導 ～前期課程において後期課程教諭が提示するパフォーマンス課題を通して～	<p>◇成果(○)と課題(●)</p> <p>○〔動機付けに対するアプローチ(前期教諭・後期教諭の役割分担)について〕児童の動機形成に効果的にアプローチすることができた。</p> <p>○〔パフォーマンス課題について〕パフォーマンス課題の効果である、児童の知識・技能、思考力・判断力・表現力を一体的に活用することにつながることができていた。</p> <p>●〔動機付けに対するアプローチ(前期教諭・後期教諭の役割分担)について〕一単位時間ではなく、単元全体を貫く課題を設定した場合の後期教諭の役割を明らかにする必要がある。</p> <p>●〔パフォーマンス課題について〕今回実施できなかったパフォーマンス評価の実施や他学年・他教科と連携した学びの創造につながるより広範で真正なパフォーマンス課題の設定を行うことも考えている。</p>
沖縄	那覇市立真和志小学校	自ら課題を見つけ解決する「自立した学習者」の育成 ～授業改善リーダーの立場から「令和の日本型学校教育」を推進して	<p>令和4年度県学力到達度調査(R5.2月実施)、本校平均正答率と県平均正答率との差。 【5年:算数+4.9 6年算数+2.7(ちなみに前年度は-3.2)】</p> <p>この結果から、5・6年共に算数の正答率が県平均を大きく上回っており、さらに6年生に至っては前年度マイナスの結果から今年度にかけて大きく躍進したことがわかる。</p> <p>その他の学年においても、算数の学習において主体的に学ぶ姿(発表が増えた。家庭学習で授業と連動した内容が増えた。友達に教えてもらいながら解決する場面が増えた等)が見られるようになった。しかし授業改善の立場として関わる時間には限りがあるため、担任による協力や授業観の見直し求められる。次年度は学校全体で「個別最適な学び」をより促進していくための校内研究体制を確立していく必要がある。</p>

令和4年度 教育研究助成応募【団体研究】

都道府県	学校名・団体	研究主題	主要な研究成果
神奈川	神奈川県小学校教育研究会	基礎基本を身につけ、自ら学び、他社と協働し、心豊かに生きる子どもの育成をめざした小学校教育の創造 ～GIGAスクール構想の推進の取組～	研究の成果○・今後の課題◇ ○川崎市小学校教育研究会研究大会において、GIGAスクール構想を意識した講演会を開催したり、授業研究会でGIGA端末を使った授業公開を開催したりすることで、端末を情報活用能力の育成のために使っていくように意識付けを図ることができた。 ○思考力・表現力等を育てるための端末利用を図った授業づくりに取り組んでいる学校を紹介し、周知することで市内の学校での取組が促進された。 ◇GIGA端末を使うことで学びを他教科や生活につなげていき、SDGsなどの今日的な課題の解決や夢の実現を達成するようなカリキュラムマネジメント力の育成を目指す。
新潟	上越自立活動研究会	自立活動の内容選択 ～実態把握図と卒業後の姿を参考に～	成果 ・安藤(2001)を参考にした研修を通して、実態把握図の効果や活用について考えることができ、自己内省にまで至ることができたと考える。そして、特別支援学校の参加者は、通常学校の課題に対して特別支援学校のセンター的機能を発揮することができたと考える。さらに、事例発表者は、事例への意見や感想をもらい、不確実性の高い複雑な問題状況の中で明日からの子どもへの指導に自信をもつことができるようになったと推察される。 ・社会人になった発達障害の当事者から話を聞くことによって、自己理解や自己を振り返ることを優先して指導しようとする意識をもつことができたと考え。そして、就労での課題について学び、学校と社会の接続について考えさせられる場になったのではないかと推察される。 課題 ・グループ討議の進め方の難しさと参加者のアウトプット時間の足りなさが事務局側の運営上の課題である。
新潟	中越国語教育研究会	言葉にこだわりながら豊かな言語生活を創り上げる子供の育成 ～令和時代における国語科単元学習～	当研究会では「子供自身の学びの欲求、言語活動や言語文化への興味・関心に根ざした必要感・必然性のある言語活動を展開する中で、子供が確かな言葉の力を身に付け、自ら豊かな言語生活を創り上げていく学習」の創造を目指して研究を重ねてきている。令和4年度は以下の取組を行い、国語教育に関心のある教師等に学びの場や情報交流の場を提供し、県内外から参加者を集め、国語教育の振興に貢献してきた。 (1)「地方と中央・現場と大学を結ぶ 第45回授業研究大会」の開催 ・11月11日(金)長岡市立希望が丘小学校を会場に、日本国語教育学会会長の桑原隆先生をお招きして、会員の公開授業と協議会、桑原先生の講演会を実施。 (2)単元づくりや授業づくりのポイントを学ぶ「冬季研修会」の開催 ・2月19日(日)筑波大学附属小学校の青山由紀先生の講演会と会員による実践発表をオンラインで実施。 (3)実践から学び、日々の国語授業について情報交換し合う「ミニ研修会」を年間6回実施 ・会員の実践に学んだり、国語の授業づくりについて情報交換を行ったりする「ミニ研修会」を7月から1月の間で月に1回ペースで実施。
新潟	上越市中学校長会・生き方教育部会	「共生社会の礎」としての中学校づくり ～生徒と共に創る「新たな中学校」像～	<成果> 1 多様性を感じることができる学校風土が、「校則検討委員会」を核にして醸成されてきている。 2 「教員からの『禁止と許可』による生徒管理」が減り、「生徒と教員が学び合い、話し合いながら進める学校運営」が推進されてきている。 3 教師から生徒への威圧的指導が激減した。 <課題> この取組の市内24中学校における理解度や推進度にはまだ差がある。まず教員が学校を超えて認識や情報を共有し、市全体で成果を挙げられるよう努める。
新潟	新潟市中学校教育研究協議会英語部	主体的に学び合う生徒の育成 ～4技能5領域における思考力・判断力・表現力を高める指導を通して～	・生徒の深い学びにつながる具体的な手立てを、市内で共有することができた。 ・今年度はオンラインでの一斉研修会であったが、動画を交えて具体的な取組を示すことにより、生徒の様子や指導と評価の具体について理解を深めることができた。 ・指導と評価の一体化について、教職員の悩みや日ごろの指導の困りや課題を共有することができた。そして、その困りや課題を解決するための一つの手段として、G o o g l e Classroom での情報共有が非常に有効に働いた。 ・市内全体で作成した指導と評価の一体化のための資料に基づき、推進校が中心となって授業実践を行った。成果と課題について新潟市内で広く情報共有ができた。

令和4年度 教育研究助成応募【団体研究】

都道府県	学校名・団体	研究主題	主要な研究成果
静岡	静岡県教育研究会理科教育研究部	<p>中学理科教員の新時代に向けた授業力向上計画 ～新教科書に新たに掲載された実験の習得と小学校理科教育との連携～</p>	<p>研究の成果: ・新教科書の内容を調査し、小学校理科教育との接続が強い題材として、「磁界」と「消化」を抽出し、小中の実験内容の重複部分と相違部分を記したマニュアルを開発した。また、新たに掲載された実験及び新教材として、「蒸散」と「化学電池」を抽出し、新実験を成功させるための手法を記したマニュアルを開発した。 ・年間5回のワークショップを開催して、中学校理科教員の授業力を向上させた。磁界実験では小学校で扱う電磁石で動く玩具を製作して中学校へ繋がる内容を確認した。消化実験では指示薬が違うだけであることを確認した。蒸散実験ではシリコンチューブに染色水を満たす手法を会得した。化学電池実験では3種類のダニエル電池を扱ってそれぞれの長短を体験した。 ・GIGAスクール構想による1人1台端末を使った授業実践として、端末を使った顕微鏡観察、動画撮影、レポート作成、データのグラフ化などを共有した。</p>
愛知	西春日井地区小中学校校務主任会	<p>児童生徒が安全・安心に過ごせる学校づくり ～環境整備・感染症対策・タブレット端末導入における校務主任の役割を通して～</p>	<p>主要な研究成果 1 研究の成果 学校安全コーディネーターとして、安全点検表を活用して、全職員に項目観点を共通理解させることや児童生徒が普段使用している箇所で起こりうる危険について考えさせることなど、事故の未然防止につながる取組がなされていた。感染症対策やタブレット端末の整備に関しても、各学校の職員と連携を取りながら知恵を出し合い、よりよい方法を求めて取り組んでいることが分かった。そして、他校の実践を知ることで、自校に還元していこうとする柔軟な考えをもったり、よりよい方法を導き出したりすることができた。 2 今後の課題 安全・安心に過ごすことができるような環境整備に関しては、素早く対応していくことが重要である。しかし、校舎や遊具の老朽化が進み、修繕箇所が多く、限られた費用の中でどのように環境整備を行っていけばよいのかを考えていく必要がある。 今後も、各学校の実践で得た課題や成果を共有し、安全・安心に過ごすことができる環境整備について、校務主任が中心となり職員と連携して学校全体で考えていくことができるよう努めていきたい。</p>